県南家畜市場通信

令和5年4月号

飼料・肥料 高騰の今！

「 公共牧場を活用しよう 」

　すっかり雪も解け、例年よりも早く春の暖かさを感じますね。農作業は順調にスタートしたでしょうか？
　さて、飼料も肥料も高騰している今、うまく活用したいのが、「放牧」、「公共牧場」です。今回は、公共牧場活用のメリットや注意点についてお伝えします。

＜　公共牧場活用のメリット　＞

公共牧場を活用することで、飼料の確保、飼養管理や堆肥処理作業の労力軽減などさまざまなメリットが期待できます。
公共牧場活用の主なメリットは以下のとおりです。

○施設等の有効活用

・牛舎の収容能力以上の頭数を飼養できる
・自給飼料基盤が少なくても増頭が可能
・堆肥舎が小さくて済む
・機械の耐用年数が延びる

農繁期の圃場作業との両立も可能に！

○労力軽減

・飼料給与、除糞、糞尿処理、堆肥散布等の作業の軽減

○コスト低減

・飼料費、自給飼料生産費、肥料費の低減
　公共牧場の１日あたり利用料は、繁殖牛１日１頭当たりの飼料費のみと比較しても圧倒的に安価

繁殖雌牛１日１頭当たりコスト比較

〔公共牧場利用なし〕		〔公共牧場利用あり〕
飼料費746円/日	＞＞	**放牧料金約300円/日**

※R3肉用牛生産費（農林水産省畜産物統計）、
　R5奥州管内公共牧場利用料金（管内繁殖牛18か月以上）より

○家畜の健康増進

・運動やストレスの低減による
　繁殖機能の回復や耐用年数の延長など

公共牧場はどんどん活用していきたいね！
次のページでは、入牧時の注意事項を紹介するよ！

ポイント

＜　入牧前の注意点　＞

入牧前には、注意点がいくつかあります。牛が安心快適に過ごせるよう、１か月前を目安に、しっかりと準備をして入牧するようにしましょう！

○**削蹄**　入牧１か月前には済ませ、歩行に支障がないか確認します。
○**妊娠鑑定**　妊娠牛のみ放牧受入する牧場では、獣医師による妊娠鑑定を済ませます。
○**明るさ馴致**　日中だけ外につなぐなど、直射日光に馴らします。
○**青草馴致**　普段の給餌の他に、刈り取った青草を給与します。
○**群馴致**　可能であれば、パドック等で群れでの行動に馴らします。

特に、初めて放牧する育成牛や初産牛は、急な環境変化への順応に時間がかかります。上記馴致をしっかりしたうえで、放牧経験のある牛と一緒に入牧させることをおすすめします。
詳細は各牧野の入牧条件をご確認ください。

飼料増産の取組事例

耕畜連携による大豆×ライ麦の二毛作の取組

奥州市江刺地内では、農地の高度利用による飼料増産として、水田利用経営体が作付けた大豆の収穫後に、ライ麦を作付けする取組を実証しています。
水田利用経営体にとっては大豆の連作障害の回避、畜産経営体にとっては自給飼料の確保とお互いのメリットが期待できる取組です。
今後、ライ麦は５月上～中旬に収穫し、ラップサイレージにして、ライ麦収穫後は、大豆を播種する計画です。
実証結果は随時市場通信でお知らせします。

R4.10.28　施肥・播種

R4.12.１　積雪前

R５.３.23　生育中

お問い合わせ　＞＞＞　奥州農業改良普及センター　0197-35-8451
一関農業改良普及センター　0191-52-4961